

## ● Letter to the Editor

## 医療・介護関連肺炎患者へのリハビリテーション介入の意義

寺本 信嗣

キーワード：医療・介護関連肺炎，呼吸リハビリテーション，誤嚥性肺炎  
Nursing- and healthcare-associated pneumonia (NHCAP), Pulmonary rehabilitation,  
Aspiration pneumonia

## 編集委員長殿

高村圭先生たちの医療・介護関連肺炎（nursing- and healthcare-associated pneumonia：NHCAP）入院患者の入院日数の検討<sup>1)</sup>は、NHCAP治療を考慮するうえで重要なデータを提供しています。しかし、後方視的研究であるため、呼吸リハビリテーション介入の入院期間短縮効果（ $26.5 \pm 20.0$ 日から $20.4 \pm 14.3$ 日へ短縮）という重要な成果が必ずしも十分に考察されていません。NHCAPは病因論的に誤嚥性肺炎と考えられます<sup>2)</sup>。この誤嚥性肺炎の治療について、入院3日以内の早期の肺理学療法を7日間導入することで、入院死を減少させたエビデンス（30日死亡、7.1%から5.1%に減少）があります<sup>3)</sup>。誤嚥性肺炎研究でも、呼吸リハビリテーションや肺理学療法が予後に貢献した研究は必ずしも十分ではありませんが、本研究を含め、NHCAPが呼吸リハビリテーション、肺理学療法の重要な適応疾患として広く認知される必要があると思います。NHCAPの標準治療確立のために、本研究のようなエビデンスの集積は必須であり、その論点をさらに明確にする議論が必要だと考えます。

著者のCOI（conflicts of interest）開示：寺本 信嗣；講演料（日本ベーリンガーインゲルハイム、アストラゼネカ、杏林製薬）。他は本論文発表内容に関して申告なし。

## 引用文献

- 1) 高村 圭, 他. 当科における医療・介護関連肺炎入院患者の入院日数の検討. 日呼吸会誌 2022; 11: 171-7.
- 2) Teramoto S. The current definition, epidemiology, animal models and a novel therapeutic strategy for aspiration pneumonia. *Respir Investig* 2022; 60: 45-55.
- 3) Momosaki R, et al. Effect of early rehabilitation by physical therapists on in-hospital mortality after aspiration pneumonia in the elderly. *Arch Phys Med Rehabil* 2015; 96: 205-9.

---

連絡先：寺本 信嗣

〒193-0998 東京都八王子市館町1163

東京医科大学八王子医療センター呼吸器内科

(E-mail: shinjit@tokyo-med.ac.jp)

(Received 5 Aug 2022/Accepted 21 Sep 2022)

Response to Letter to the Editor

## 医療・介護関連肺炎患者へのリハビリテーション介入の意義

高村 圭

東京医科大学八王子医療センター呼吸器内科の寺本信嗣教授よりコメントをいただきました。

医療・介護関連肺炎（nursing- and healthcare-associated pneumonia：NHCAP）の病因は、寺本先生のreviewにもありますように誤嚥であり、その原因である嚥下障害の非薬物治療として、嚥下リハビリテーションや口腔ケアなどに加え、早い時期からの理学療法士によるリハビリテーションを挙げています<sup>1)</sup>。

当科でもNHCAP患者の入院の際には、摂食嚥下障害看護認定看護師による口腔ケアと、言語聴覚士による嚥下リハビリテーションに加え、理学療法士によるリハビリテーション介入を以前から導入していました。

実際の臨床の現場でその有用性を感じてはいましたが、あくまで臨床上の実感です。口腔ケアと嚥下リハビリテーション、理学療法士によるリハビリテーションのうち、リハビリテーションであればADLの評価を前後で検討できると考えたのが研究の端緒です。

結果として当科におけるNHCAP患者の検討で、リハビリテーション介入により退院可能群で入院日数の短縮が認められたと報告しました<sup>2)</sup>。しかし後ろ向き研究であり、またリハビリテーションの内容もいわゆる一般的なものであることから、ADLの改善に寄与している可能性との結論にとどまりました。リハビリテーションのどの点がNHCAP患者にどう寄与しているのか具体的な点を議論できていないのもご指摘のとおりです。とはいえ、議論が不十分な本研究ではありますが、標準治療確立のためのエビデンスの一つと位置づけていただいたこと、非常に嬉しく思っています。

最近、東京女子医科大学八千代医療センターの今村創先生らから、慢性呼吸器疾患患者における呼吸リハビリテーションに関するアンケート調査の依頼が、日本呼吸器学会の連携施設にあったと思います。

今回の一連の流れが、呼吸リハビリテーションの、前向きの、多施設による比較試験の実現に向けての議論の契機になればと考えています。日本呼吸器学会の連携施設の諸先生方に是非ご意見いただけると幸いです。今回は貴重なご提言を誠にありがとうございました。

著者のCOI（conflicts of interest）開示：本論文発表内容に関して申告なし。

## 引用文献

- 1) Teramoto S. The current definition, epidemiology, animal models and a novel therapeutic strategy for aspiration pneumonia. *Respir Investig* 2022; 60: 45-55.
- 2) 高村 圭, 他. 当科における医療・介護関連肺炎入院患者の入院日数の検討. *日呼吸会誌* 2022; 11: 171-7.

連絡先：高村 圭

〒080-0024 北海道帯広市西14条南10-1

JA北海道厚生連帯広厚生病院呼吸器内科

(E-mail: keimakikanokota@gmail.com)

(Received 11 Sep 2022/Accepted 21 Sep 2022)